

# 青年部の提言による新幹線を活かした 念願のフルマラソン大会実現

## 日本商工会議所「平成29年度全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞」 において本所が『観光立“地域”特別賞』を受賞

「全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞」は、地域の個が光り他の範となる観光振興事業に取り組む商工会議所を顕彰するため、日本商工会議所が平成20年度より実施し、今年度で10回目となる表彰制度で、この度、本所は、「青年部の提言による新幹線を活かした念願のフルマラソン大会実現」という内容で準大賞に相当する『観光立“地域”特別賞』を受賞しました。

同表彰では、全国515の商工会議所から毎年8件前後が選奨され、前回まで79件が受賞、北海道からは5件目の受賞で、『観光立“地域”特別賞』は、道内商工会議所では初受賞となりました。

### 【評価ポイント】

- 青年部の発案を商工会議所がサポート、関係機関等に働きかけ都市型フルマラソンを実現
- スポーツイベントにより、地域内経済循環をはじめ大きな経済効果を創出

今回の特集では、コース造成や運営体制、費用面等、課題が多く開催が難しいとされていたフルマラソン大会実現までの取り組みや経緯を改めて紹介するとともに、関係者らにこれまでの振り返りや今後の展望等を語っていただきました。



日商三村会頭から表彰を受ける久保会頭

## 函館マラソン大会について

- ◎ 青年部の提言により創設活動が開始され、実現したフルマラソン大会（2011年4月活動開始、2016年6月実現）
- ◎ 定員計8,000名（フル4,000名 ハーフ4,000名）
- ◎ 観光名所を走る市内完結都市型フルマラソン（日本陸上競技連盟・国際陸上競技連盟公認）
- ◎ 梅雨がなく夏でも冷涼な地域特性を活かし、全国的にマラソン大会が少ない6月下旬～7月上旬の大会開催
- ◎ 青年部、函館市、道南陸上競技協会の三者が実行委員会運営の中枢を担う
- ◎ 本所が協賛金確保をバックアップ（会頭が函館マラソン大会協賛会会長）

## フルマラソン大会実現までの取り組み

### フルマラソン創設活動【1. 動機】

#### ①実施が難しい都市型フルマラソンの開催が圧倒的な競争力に！

- 全国のマラソン大会開催状況

マラソン大会…1900件	フルマラソン…200件
日本陸上競技連盟公認…75件	都市型マラソン…30件

#### ②地域経済への経済波及効果

1年間にフルマラソンを走る人は日本人口の約0.25%と言われ、函館都市圏では1,000名程度で、函館でフルマラソン大会を開催した場合、他のランナーは他地域から訪れ、その多くが前後泊、家族・友人・知人を伴い

**→わずか1日間のイベントながら、参加人数・開催日数以上の経済効果を創出できる**

#### ③地元の背景と状況

- 「函館ハーフマラソン」はフル化を前提としていたが、コース造成や運営体制、事業費確保の問題から実現困難とされていた
- 青年部は、スポーツコンベンションの推進、誘致、振興に取り組んでおり、近年のマラソン愛好者の増加をチャンスと捉え、北海道新幹線開業を見据えた観光振興に活かすため、フルマラソン大会創設活動に着手
- 函館の観光は、景気や災害に左右されやすく、新幹線が開業したからといって、自動的に人が来続けるわけではない

**→人が集まる仕掛けをどれだけ作れるかが函館の将来を左右する**

## フルマソン創設活動【II. 経過】

- 2011年4月 青年部「フルマソン検討委員会」が発足  
 ●実現に向けた事例研究 ●啓発のための講演会開催 ●フルマソンコース案の検討協議
- 2011年6月 青年部が函館市教育委員会に呼びかけて検討会議開始
- 2012年2月 青年部役員が会頭と共に市長を訪問、フルマソン大会実現を要請
- 2012年4月 函館ハーフマソン大会実行委員会内にフルマソン検討部会が発足、部会長には青年部副会長が就任  
 →北斗市、七飯町等の参画も得て、より広範に協議
- 2012年9月 将来のフルマソン化を前提に函館ハーフマソン大会の定員を2,000名から4,000名に拡大
- 2013年4月 青年部、道南陸上競技協会、函館市教育委員会の三者で引き続きワークグループを設置し、下記の主要課題を精査
- コース調整 日本陸上競技連盟競技規則等に基づいた競技運営や安全確保
  - 市民理解 長時間に亘る交通規制等を伴うことから、市民理解が不可欠
  - 運営体制・事業費 スタッフ確保や運営組織体制の強化、財源確保等の運営基盤の確立が重要

### →主要課題の解決に向けて三者で協議

#### 山積する難問を熱意で打開

##### 課題

- ・道路使用許可
  - ・市民理解
  - ・億単位の開催経費
  - ・ボランティア・スタッフの不足
- フルマソン開催は困難



##### 解決に向けた活動

関係機関と意見交換を重ね……熱心な働きかけにより道路使用許可が実現  
 検討部会の討議状況の周知・公開や青年部のPR活動等を経て……市民理解が浸透  
 函館マソン大会協賛会を設立し……会議所の組織力を活かし、協賛企業を募る  
 町会や学校、企業等に協力を呼びかけ……ボランティア・スタッフを確保  
 →山積する難問を熱意で打開

## 2014年7月 2016年度のフル・ハーフ同時開催が正式決定!!

- 2015年8月 会頭・市長による北海道知事への協力要請  
 2015年9月 函館マソン大会協賛会設立

▶高橋北海道知事へ  
 要望書を手渡す松本  
 名誉会頭



## フルマソン創設活動【III. 運営】

### ■フルマソン大会開催PR活動



▲仙台国際ハーフマソンにて  
 P Rを行う青年部



▲宇都宮マソン大会にてP Rを  
 行う青年部

▶地元大会で沿道応援・P R



▶PRピンバッジやTシャツ  
 ・ランニングマツを制作頒布



### ■実行委員会が運営する公式ホームページ



▲随時最新情報が更新され、当日までランナー  
 のモチベーションを高める

### ■大会前日の青年部主催 「ランクリニック」



▲青年部中心にボランティア会に積極的に  
 に協力し、市民を巻き込んでエイド運営

### ■大会当日の給水所・エイド運営

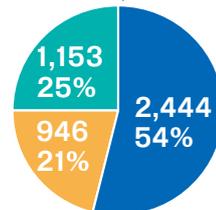


▲フードエイドでは、函館ならではの当地グルメ&スイーツを提供

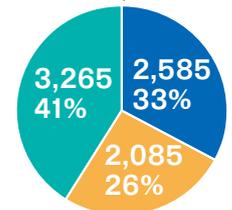
## フルマソン創設活動【IV. 成果・課題】

- マソン参加人数の変化  
 2015函館ハーフマソンと2016函館マソンを比較すると、函館・道南  
 以外からの参加（宿泊を伴うと想定される参加者）が  
**46%から67%となり、約3,300人も増加!!**
- 経済波及効果（本所推計）  
**経済波及効果額5.6億円**（直接消費額3.8億円）
- 参加者アンケートの評価  
**86.7点**（2016大会は68.2点）  
 実行委員会が日本最大級のランニングポータルサイト「ランネット」に投  
 稿された大会評価結果を取りまとめ、課題を明確化、次大会への改善に繋げる

2015 函館ハーフマソン  
 ■函館・道南 ■ほかに道内 ■道外・海外  
 登録者4,543人



2016 函館マソン  
 ■函館・道南 ■ほかに道内 ■道外・海外  
 登録者7,935人



**2018函館マソン開催決定!!**  
**2018年7月1日(日)**  
**フル・ハーフ同時開催!!**

# 函館フルマラソン大会実現までの振り返りと今後の展望

函館商工会議所 会頭 久保 俊幸

長らく構想がありながら具現化出来なかったフルマラソンが、青年部による自治体や関係団体との協議、市民への情報発信等、地道な活動を経て、北海道新幹線開業と同年に実現できたことを誇りに思います。

来る7月1日に開催される2018函館マラソンにおきましても、美しい景色を楽しめるコース設定はそのままに、地元の食材を活かしたフードをコース各所で提供する等、レース環境の充実を図り、参加するランナーの皆様に一層ご満足いただけるよう、本大会の更なる発展を願っています。

北海道新幹線開業から3年目を迎えますが、今後も函館に人が集まる機会を作っていくことが重要です。交流人口の拡大に寄与する函館マラソンも、そうした取り組みの一つと捉え、本所としてもマラソン大会協賛会等の活動を通じ、今後も大会の円滑な運営を支援していきたいと考えています。

大会の開催に当たっては、3,000名もの大会運営関係者や200社もの協賛企業にご協力をいただいております。まさに地域一丸となって取り組む函館の一大スポーツイベントとなっています。2018函館マラソンの盛大な開催に向けて、本年も会員企業をはじめとする多くの皆様にご協力をお願い申し上げます。



函館商工会議所 副会頭 境 勝則  
(函館マラソン大会協賛会会長)

今回の日本商工会議所『観光立“地域”特別賞』受賞は、協賛会としても大変嬉しいニュースとなりました。

当協賛会は、平成27年9月に設立され、前会長の松本名誉会頭を中心に精力的に活動を続け、本所の強みである組織力を活かした地元企業への資金・物品協賛の要請活動をはじめ、会頭・市長による北海道知事への協力要請等を通じて、大会の円滑な運営を支援してきました。前会長が築き上げた大きな基盤を損なうことなく、今後も青年部や実行委員会が財政面において安心して活動できるようサポートを続けていきたいです。

ハーフマラソン時代から続く函館マラソンは、市内において初夏を彩る道内を代表するロードレースに成長しています。梅雨がなく夏でも冷涼な地域特性を活かし、今後、全国的にマラソン大会が少ない6月下旬～7月上旬の大会として全国に浸透することや、1万人規模への定員拡大等、函館マラソンの地位の向上と発展を願っています。



函館マラソン大会実行委員会 委員長 岡部 壽一  
(道南陸上競技協会会長)

平成3年から四半世紀に及ぶ歴史を重ねてきた「函館ハーフマラソン大会」は、この発意の段階から、フルマラソン化を目標として歩んでまいりました。フルマラソンの実現には事業費面をはじめ大きな問題を抱えましたが、函館商工会議所に「函館マラソン大会協賛会」を組織していただき、大会運営を強力にバックアップしていただくことで、平成28年6月26日、待望のフルマラソンを開催する「函館マラソン」として生まれ変わることができました。

新装なった当大会は、平坦で高速レースが展開される競技性の高いハーフマラソンの部に加え、高低差が大きい難コースでありながらエイドステーションではラーメンや海鮮丼、メロン等、北の幸の魅力でランナーを惑わせるフルマラソンの部も同時に展開されることから、他にない特色ある大会として全国的な認知度も高まってきております。

この実現は、必要物品並びに食材の調達や大会当日の運営スタッフとしての人材確保等、函館商工会議所青年部のご努力の賜物であり、フルマラソン検討段階より、函館商工会議所の皆様から多大なるご支援を頂戴してきましたことを、改めて感謝申し上げます。

結びに、当大会の目指すところは「日本一のマラソン大会」でございますので、皆様におかれましては、引き続き大会の更なる成長に向け、今後ともお力を存分に発揮していただきますようよろしくお願いいたします。



## 函館商工会議所 青年部顧問 齋藤 利仁

青年部「フルマラソン検討委員会」発足時に、当時の会長だった高野常議員より担当副会長に選任いただき、昨年4月まで函館マラソンに係る活動に取り組んでまいりました。

活動を振り返ると、当初は、道路使用許可や開催費用等の問題からフルマラソン開催は無理だろうという声が多かったのですが、当時、会頭だった松本名誉会頭が共に市長へフルマラソン開催検討を要請してくださり、ハーフマラソン大会実行委員会内にフルマラソン検討部会が発足しました。その後、青年部メンバーによるPR活動や検討部会の討議状況の周知・公開等を経て市民理解が浸透し、本所内に発足したマラソン大会協賛会にご尽力いただいた結果、多くの協賛企業の協力を得て、フルマラソンが開催となりました。協賛会をはじめ実行委員会、青年部メンバー、そして、様々な形で私達をリードしていただいた松本名誉会頭には深く感謝申し上げます。

ハーフマラソン時代と比較すると、市外や道外からの参加者や同伴者の前後泊が飛躍的に増加し、本業のホテル経営では、その経済効果を肌で感じました。大会としての位置付けも、市民を対象とした大会から全国各地より多くの人を呼び込む街の一大イベントに発展したと思います。

マラソンブームにより、全国各地で大会が増えており、大会同士の競争が激化することも考えられますが、函館マラソンは、昨年の国際陸上競技連盟のコース認定に加え、美しい景観、豪華なエイドフード等の大会としての特色、函館の観光地としての知名度も踏まえると、今後も多くのランナーを函館に呼び込めるものと考えています。

青年部メンバーには、新たなアイディアを出し合いながら活動に取り組んでいただき、世界大会選考レースを究極の目標に、日本を代表するマラソン大会へと育てていってほしいと思います。



## 函館商工会議所 青年部会長 外崎 浩之

この度の日本商工会議所『観光立“地域”特別賞』の受賞については、諸先輩方の長年の活動が表彰という形で評価され、全国的に広く知られる機会となり、大変嬉しく思います。

2017函館マラソンの参加者アンケートでは、86.7点という高い評価をいただきましたが、まだ伸びしろがあるように思います。今後、大会の付加価値を高めていくには、運営上の諸課題改善や大会を盛り上げようという市民レベルでの機運の醸成だけでなく、大会前後の楽しみ、アトラクションを増やすことが重要です。

一昨年から大会前日に開催している青年部主催「金哲彦の体幹ランニングクリニック」は、多くの参加者からご好評いただいております。アトラクションとして有効であるだけでなく、大会の知名度拡大の効果もあることから、今後も、著名人のゲストランナーによる講演会やイベント等の企画を継続して行う必要があると感じました。また、大会終了直後に利用できる温泉施設や居酒屋等の“観光”と“食”の情報提供も重要です。青年部としても地元ネットワークを活かし、よりきめ細かな情報提供の方法を模索したいと考えています。加えて、昨年の国際陸上競技連盟によるコース認定や今回の『観光立“地域”特別賞』受賞等のニュースを知名度拡大に活用し、フルマラソン大会としての地位確立や国際的な認知度の向上に努めていきたいです。

最後に、私自身も昨年の大会にランナーとして参加しましたが、市民レベルで見ても美しい景観のコースや魅力的なエイドフード等、走りながら、改めて函館の魅力を堪能することができました。当市自慢の“函館マラソン”に、本年も多くのランナーのご参加を心よりお待ちしております。



## 今後のフルマラソン開催継続のために・・・



函館マラソンは多くの地元企業による協賛、市民や各団体のボランティアによって支えられています。フルマラソン開催継続のためには、地元企業や市民の皆様が必要です。特に、協賛金やボランティアスタッフについては、大会運営に大きく影響するもので、今後も安定した大会運営を行うため、会員企業をはじめとする皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今後も本所では、マラソン大会だけではなく、様々な事業を通じ、当地域の街づくりや経済活性化の推進に努めてまいりますので、本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。